

# 登山月報



ランポ・サウスピーク (右) (6,852m)



2020年新春懇談会 .....	2
2020年新春顧問参与会報告 .....	3
第10回全国高等学校選抜 スポーツクライミング選手権大会報告 ..	4
第135回 Mountain World .....	5
<b>新連載</b> 『日山協と私』 .....	6
第6回海外登山懇談会・報告 .....	7
UIAA総会 Cyprus (キプロス) 報告 .....	9
創立70周年記念講演会・祝賀会・山岳資料展 .....	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記 .....	12

# 2020年新春懇談会

恒例の新春懇談会が1月11日(土)に東京・アルカディア市ヶ谷で開催された。当日は駐日ネパール特命全権大使の代理としてクリシュナ・チャンドラ・アリアル公使参事官をはじめ東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の布村幸彦副事務総長、国立登山研修所・藤原洋所長、加須市・渡邊義昭教育長、日本ネパール協会・小嶋光昭会長、日本勤労者山岳連盟・浦添嘉徳理事長、日本山岳ガイド協会・磯野剛太理事長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳文化学会・酒井國光会長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、180名の参会者となった。

はじめに平山副会長が開会を宣言し、八木原会長が主催者を代表して挨拶を行った。

「いよいよ東京2020オリンピック本番の年を迎えました。ホスト国としてメダル獲得はもとより大会が成功裡に終了し、オリンピック・レガシーを後々まで継承していきたい。相変わらず山での遭難事故は、右肩上がりが増えていきます。『そうよ そうなの 遭難よ!』のアニメ動画を制作して減遭難キャンペーンを展開しております。より多くの一般登山者に拡散し、減遭難を啓発していきましょう。」と力強く挨拶された。

続いてご来賓を代表して布村副事務総長、クリシュナ公使参事官、藤原所長からご挨拶を頂戴した。

其の後、乾杯を行い祝宴に入った。乾杯は、坂口三郎、田中文男、本木総子、神崎忠男各顧問によって行われ、代表して神崎顧問のご発声で祝杯を上げた。

北は北海道から南は大分まで世代を超えた方々が一堂に参集され、あちらこちらで懐かしい想い出話に花が咲いていた。

会場には、スポーツクライミング日本代表選手も出席され、安井博志強化委員長から選手紹介があり、出席者から激励を受けていた。



八木原会長挨拶

名残尽きない楽しいご歓談の後、亀山副会長が中締めを行い、最後に丸副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。

## 2019 シーズンJMSCA表彰式

新春懇談会に先立ち、「2019 シーズンJMSCA表彰式」が同会場で開催された。

表彰式は、「山岳部門」と「スポーツクライミング部門」の2部制で行われ、「山岳部門」では、先ず、第9回日本山岳グランプリの表彰が行われた。グランプリは、池田常道氏(75)＝東京都在住＝に贈賞された。

池田氏は、1969年に(株)山と溪谷社に入社。1972年から『岩と雪』の編集に携わり、77年から95年の休刊まで編集長を務める。編集長時代は、巻末の英文サマリーを充実させ、海外登山界との交流を促進。世界の登山誌を結ぶ国際ネットワークを構築し、定期的な情報交換を果たす。雑誌編集の傍ら、『高所登山研究』『ヒマラヤ研究』『ビッグ・ウォール・クライミング』などの山岳書を企画・編集。共訳書に『ヒマラヤン・クライマー』『ヒマラヤ・アルパインスタイル』などがある。退職後フリーとなり、2013年には『世界の山岳大百科』



顧問のご発声で乾杯



日本代表選手紹介



山岳部門表彰

の日本語訳を監修。2015年には『現代ヒマラヤ登攀史』を上梓されるなど、長年に亘って登山界に尽力された多大な功績に対してグランプリが贈られた。

続いてJMSCAや各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が行われた。受賞者は、川端満(青森)、工藤洋司(岩手・欠席)、高橋時夫(岩手)、上杉純夫(栃木)、植木孝(栃木)、女屋等志(群馬・欠席)、瀬藤武(埼玉)、秋山教之(山梨)、伊藤克己(滋賀・欠席)、加茂隆弘(大阪)の各氏。

表彰の後、受賞者を代表して池田氏と高橋氏が謝辞を述べられた。

結びに尾形専務理事が2019年シーズンのアルパインクライミングの総括を述べた。

「スポーツクライミング」部門では、トップクライマーとして圧倒的な存在感を放ち、IFSC世界選手権(八王子)のコンバインドで優勝した檜崎智亜と同女子2位の野口啓代、IFSC世界ユース選手権(アルコ)でジュニア男子複合優勝の天笠颯太とユースB男子複合優勝の関口準太、ユースA女子複合優勝の平野夏海の5選手が表彰された。

表彰後、各選手から受賞の喜びと2020年シーズンの抱負を語っていただいた。

結びに平山副会長がメダルラッシュに輝いた2019年シーズンのスポーツクライミングを総括で締めくくられた。(記 尾形好雄)

## 2020年新春顧問参与会報告

2020年新春懇談会に合わせて1月11日(土)10時より東京・アルカディア市ヶ谷で新春顧問・参与会が開催された。

顧問は坂口三郎、田中文男、本木總子、神崎忠男氏の4名。JMSCAからは八木原会長、亀山・丸副会長、



スポーツクライミング部門表彰

尾形専務理事、小野寺・水島常務理事、町田・蛭田理事、ら10名の役員が出席し、参与は全国から16名が参加された。

会議に先立ち、この1年間にご逝去された参与5名の御遺徳を偲び黙祷を奉げた。

八木原会長挨拶の後、小野寺事務局長より、日山協の現況報告として資料に基づき令和元年度上期の組織・役員体制、財政状況、事業概況、山岳共済会などの現況を報告した。亀山副会長が財政再建委員会を設立して検討していることを報告した。

参与からは以下のようなご意見を頂いた。

- これは意見ではなく、印象であるが、過去にも大会で借金をしたことがあった。他の競技に比べて競技会を現実的に見ていない。失敗談の経験として参加団体に分担して支払ったことがある。この時と状況が似ている。思い込みだけで動いているのではないか。
- 今後の日本の登山界のリーダーシップはどのように考えているか。

会長の応えは、組織登山者は全体の1%である。個々ではなく4団体が1つになって対処すべきである。60年前の事を思い起こし、60年後のことを考えると長い時間をかけて解決しなくてはいけない。若いスポーツクライマーとともに盛り返していきたい。

- さらに意見として他の山岳団体はリーダーシップを発揮していない。JMSCAがリーダーとして登山者登録を行うとか、全日本登山大会は県ではなくブロック単位で行うとか、してほしい。後者は話が既にあると聞いている。

- 「山の日」行事は登山者目線になっていない。
- 赤字の返済計画はどのようになっているか

丸副会長の応えは収入を増やすことなどを協議中である。

(記 小野寺斉)

# スポーツクライミング選手権大会報告

会場：加須市市民体育館

日時：12月22日予選、23日準決勝・決勝

加須市で開催する高校選抜大会(リード競技)は、今年で第10回を迎えた。この大会は、高校生のスポーツクライミング競技普及がコンセプト。そのようなこともあり、参加者はトップ選手から、初級者までと幅広い。今回は、42都道府県、男子109人、女子103人の参加となった。全都道府県参加にはまだ課題は多い。

## 【決勝】



女子の決勝では、波乱が起きる。12月にバンガロール(インド)で開催されたアジアユース選手権リードで優勝した樋口結花が、疲れがたまっていたか準決勝で敗退し26位に終わる。優勝は、明法高等学校の柿崎未羽が完登で優勝。栗田湖有も完登するが、カウントバックで2位となる。栗田は、決勝2番手のスタート

で完登。さすが、海外大会の経験、JOC 2019での優勝など実績が現れる確実な登りであった。その後、ゴール手前のトラバースするムーブに、てこずり敗退する選手が続く中、最終競技者の柿崎が最終の核心でホールドを確かめるように体制を整え、ゴールヘランジし完登。優勝争いを制した。

一方男子は、決勝進出者上位は、予選、準決勝のパフォーマンスから誰が優勝してもおかしくない状況。女子同様、ゴール手前のムーブ(ルード図\*)が勝敗を決める。ボリュームからカチを取るムーブで西田秀聖、

順位	名前	県/学校	予選		準決勝	決勝	時間
			ルート1	ルート2			
1	柿崎 未羽	東京/明法高等学校	TOP	33+	38+	TOP	
2	栗田 湖有	新潟/東京学館新潟高等学校	38+	33+	31+	TOP	
3	阿部 桃子	神奈川/相模女子大学高等部	TOP	30+	35+	34+	
4	中川 瑠	大阪/金蘭会高等学校	TOP	TOP	36+	33	
5	美谷島ももか	神奈川/日本大学高等学校	TOP	30+	35+	32	
6	工藤 花	山形/山形城北高等学校	38+	34+	30+	30+	
7	久米乃ノ華	千葉/船橋市立船橋高等学校	TOP	30+	38+	20	
8	小島 果琳	岐阜/岐阜聖徳学園高等学校	TOP	32	33+	19+	

順位	名前	県/学校	予選		準決勝	決勝	時間
			ルート1	ルート2			
1	西田 秀聖	奈良/天理高等学校	TOP	TOP	TOP	37+	2:58
2	村下 善乙	千葉/県立柏南高校	TOP	TOP	TOP	37+	3:02
3	坂井 亮珠	大阪/金光藤蔭高等学校	34+	TOP	TOP	35+	
4	百合草碧皇	東京/専修大学附属高等学校	34	TOP	TOP	35+	
5	大政 涼	愛媛/県立東温高等学校	34+	30+	TOP	34	
6	鶴 隼斗	埼玉/県立川越高等学校	32	TOP	27+	30+	
7	森本 治誉	岐阜/岐阜聖徳学園高等学校	32	30+	TOP	29+	
8	大里 拓己	千葉/県立幕張総合高等学校	34	30+	27+	28+	



村下善乙が37+で並ぶ。カウントバックしても差がつかず、クライミングTime 4秒差で西田の優勝がきまる。世界ユース選手権のリードで優勝している西田秀聖であったが、この年代の層の厚さを感じる。

## 【団体】

順位	女子		男子	
	県	学校	県	学校
1	佐賀県	県立多久高等学校	滋賀県	県立草津高等学校
2	千葉県	船橋市立船橋高等学校	千葉県	県立幕張総合高等学校
3	岐阜県	岐阜聖徳学園高等学校	岐阜県	岐阜聖徳学園高等学校
4	静岡県	浜松日体高等学校	佐賀県	県立多久高等学校
5	長崎県	県立大村高等学校	東京都	専修大学附属高等学校
6	兵庫県	神戸市立科学技術高等学校	栃木県	作新学院高等学校

団体には男子31校、女子23校がエントリーした。

各校上位2名の成績で争われる団体では、女子は佐賀県立多久高校が2連覇を達成、男子では滋賀県立草津高校が優勝。

## 【課題】

今回で10回の開催を迎えることができました。振り返るといろいろなことがあり、高体連、加須市、SMSCA(埼玉県山岳・スポーツクライミング協会)、協賛、サプライヤー皆さんの連携があつての10回目と感じています。改めて、この場を借りてお礼申し上げます。さて今回、高体連のスタッフが大きく代わり今までの運営の一部を見直しました。(初級レベルの告知内容取りやめ、参加者の意識向上を図るなど、競技性の向上を図る)良い方向に向かえたと感じます。今後この大会の継続と全都道府県からの参加、競技性の向上を目指すためにも上記のようにスタッフ人材の若返りと育成が必要であり一番の課題と考えており2020年はそれに向かって取り組んで行きたいと思えます。

(記 競技委員長 村岡正己)

大会映像>[https://youtu.be/YEb9Ni7w\\_sE](https://youtu.be/YEb9Ni7w_sE)



## 第135回 Mountain World

### カラコルム冬季挑戦、全敗に終わる

池田常道

唯一の冬季未踏峰K2を初めとして、今季カラコルムの高峰に挑んだ各隊は、2月第一週までに軒並み敗退することが決まってしまった。前号にお伝えしたように、今季はK2(8611m)、ブロード・ピーク(8051m)、ガッシャブルムI・II峰(8080m、8034m)への挑戦が行なわれたが、いずれも登山開始後1ヶ月内外にギブアップするという憂き目を見た。

これまで、1988年ポーランド隊(南東稜)、2003年ポーランド=カザフ隊(北稜)、12年ロシア隊(南南東リブ)、18年ポーランド隊(南南東リブと南東稜)を撃退してきたK2に挑んだのは、ミンマ・ギャルジェ・シェルパ(33)率いるネパール公募隊。昨年中には資金不足が懸念されたが、クラウドファンディングなどで調達し、出発に漕ぎつけた。

メンバーは外国人クライアント3人とパキスタンのシルバス・ハーン、それにシェルパ3人(タムティン、パサン、キリ・ペンバ)の8人構成。ミンマ自身は南東稜から2回(うち1回は無酸素)K2に登っており、クライアントとシェルパを合わせた全員のK2登頂経験8回に及ぶことから、ミンマは「十分強力なチーム」と豪語していた。8000m峰冬季初登頂者のリストに初めてネパール人の名を刻みたいという野心も隠さなかった。

ところが1月22日にBCに到着して以来、事はうまく運ばなかった。ミンマ自身「冬のK2は想像した以上の厳しさ(寒気と強風)だ」と発信しているように、1月28日にミンマとキリ・ペンバ、シルバス・ハーンが、250kgの物資を荷揚げしてあったC1で第一夜を過ごしたが、マイナス32度の寒気に寝袋も凍る始末。翌日から固定ロープを張りながら前進、南東稜の6338mまで到達した。しかし、クライアントのジョン・スノーリ・シグルジョンソンが指摘するように、「全員が冬のK2に挑む覚悟ができていなかった」という理由で、2月2日に5人がヘリでBCを退去(「救出」と表現されている)、徒歩で下山したのはネパールの2人とハーン、リエゾンオフィサーだけだった。

これまでに2回(2003、2018)冬のK2で最高到達点をマークしているデニス・ウルブコ(ロシア/ポーラ

ンド)は、カナダのドン・ボーウィと組み、フィンランド女性ロッタ・ヒンツァと3人でブロード・ピーク西稜に向かった。強風の止み間を狙って何度か試みたものの、2月1日にウルブコだけが7650mに達したところで断念した。BCに帰ったウルブコは、「ルートはできているし、(2月末まで)まだ2週間ある」とフェイスブックに書き込んでいるが、果たして単独で難局を打開できるかどうか。

世界でただひとり8000m峰4座の冬季初登頂記録(シシャパンマ8027m、マカルー8485m、ガッシャブルムII峰、ナンガ・パルバット8126m)を持つシモーネ・モーロ(イタリア)は、イタリア領南チロルの女性タマラ・ルンガーと二人でガッシャブルムI峰とII峰の継続登攀を狙って昨年12月31日、南ガッシャブルム氷河にBCを設けた。

ところが、表面を覆った雪が飛ばされて氷がむき出しになったアプローチの氷河は、クレバスが大きく開いて最悪の状態だった。ボルツァーノで低圧訓練を受けてきた二人だったが、ルート工作に手間取ったばかりか、モーロが致命的となりかねない墜落を喫したのを潮に1月19日に撤退を決めた。

ルンガー(33)は、モーロと挑んだ2016年のナンガ・パルバットで頂上直下70mまで迫ったものの惜しくも断念、冬季初登頂の栄誉はモーロとアレハンドロ・チコン(スペイン)、アリ・サドパラ(パキスタン)のものとなっていた。



K2をバックに飛ぶヘリのショット アプリコット・ツアーズ(パキスタン)が公表したイメージ写真から



新連載 ～創立60周年に向けて～(21)

# 『日山協と私』

一般社団法人岩手県山岳・スポーツクライミング協会  
高橋 時夫

日山協60周年を想うとき、頭に浮かぶのが昭和35年4月全日本山岳連盟と(社)日本山岳会の大同合併の経緯とその後の歴史である。(一社)岩手県山岳・スポーツクライミング協会も、日山協創立の19年前の昭和16年7月に岩手県山岳聯合として創立された。地方において全国の同志とともに昭和23年10月30日の全国山岳連盟創立に尽力した故工藤七郎氏を思い出す。昭和54年栃木県で開催された第20回全日本登山体育大会に工藤七郎先生と20代前半の小生達が出場。日光市の市街地を行進し霧降高原から赤薙山、女峰山、男体山と残雪の中を縦走した。

地方岳連(協会)において日山協との関わりは競技登山と安全登山の啓発指導、指導員制度、海外遠征の推薦状の依頼等である。競技登山に関しては、国民体育大会山岳競技、インターハイと郷土の代表として上位入賞が目標であった。選手、監督として組織への帰属意識より競技結果へのこだわりを強く思っていた。高校2年の大分インターハイ、3年の岩手インターハイ、国体では23歳の挑戦となった和歌山県果無山系の縦走国体。成年女子種目導入となった長野戸隠国体、福島国体には監督として、また、山口国体から愛媛国体まで10年間は、スポーツクライミングへの移行期で役員として国体の変遷に触れる機会であった。

そして4年前の希望郷いわて国体を主管して競技の目まぐるしい変遷に隔世の感がある。



昭和54年 栃木県日光市 工藤七郎先生



平成2年8月 鎌田久元会長と盛岡

昭和年代の全日本登山体育大会は、都道府県代表チームとして競技形式が取られていたと記憶している。今でこそ、岳友・OBを中心とする交流の場である全日本登山大会も最近までは、「体育」大会と称して都道府県チーム対抗で、雪山での技術交換、体力を競う場であった。東北での全日大会は秋田県和賀山系での第13回、第15回の八甲田連峰、第16回の秋田駒ヶ岳、第19回宮城蔵王での雪上技術交換、第24回早池峰山。その後、飯豊の第27回、鳥海山、安達太良山と続いた。平成5年に現在のスポーツ指導員制度は日本山岳協会公認指導員制度から文部省所管の日本体育協会認定の山岳スポーツ指導員へ移行したことも一つのエポックである。当時、県理事長として安全登山、加盟団体の活性化には、担い手となる指導員養成が第一と考え、100人を超える指導員養成に注力した。一部から指導員の粗製乱造の声も聞かれたが、あえて育成に力を入れた。結果、指導員総数は172名となった。その後の経過を見ると全国有数の指導員数は本県の協会発展に大きく貢献している。人材育成の重要性を説いてよかったと思っている。この制度も今年からコーチ制度に移行した。登山界には、さまざまな指導員、ガイド制度がある中、(公財)日本スポーツ協会公認制度で厳格な検定制度に担保された山岳コーチ・スポーツクライミングコーチ制度を生かし、名実ともに我が国の山岳・スポーツクライミング指導制度の柱であることを誇りにコーチ(指導員)養成が急務である。

振り返ると、平成2年8月には、盛岡市で鎌田久元会長から日山協再生への熱い思いに心打たれた。また、日山協の公益法人移行に伴うブロック理事二人制が一人制となることで、神崎忠男前会長に直談判したときは寛容にお聞き頂いたことに感謝している。平成29年の「山の日」制定記念事業は、前年8月の集中豪雨で被災した岩手県岩泉町の子供たちが、鈴木大地スポーツ庁長官と岩手山登山に挑戦。小雨交じりの天候であったが見事登頂。思い出深い山の日記念山行として山の

日の制定の意義を全国に発信して頂いた。さて、東日本大震災から8年余、復興途上のなか都岳連をはじめとする多くの皆さんが宮古市をはじめ東北各地での継続支援へ感謝している。また、縁あって近畿ブロック会議出席の際は、皆さんに温かく迎えて頂いたことも嬉しかった。日山協副会長時代は、公益法人移行、国体改革、スポーツライミングのオリンピック種目決定など協会大改革の幕開けとなった。特にスポーツライミングがアーバンスポーツの一つとして2020東京オリンピック追加種目として決定した。ワールドカップ、世界選手権等での日本選手の活躍もありスポーツライミングがマイナースポーツから一夜にしてメジャースポーツの仲間入りすることとなった。併せて日山協と加盟団体の名称変更の動き、ガバナンスの確立、コンプライアンスの徹底と加盟団体の組織強化が求められた。偶々、47都道府県の財務分析、法人化への取り組み等の調査分析を担当させて頂いたなかで、法人化、財政基盤の確立、組織の高齢化等の課題に47都道府県の岳連(協会)がそれぞれの歴史と実績をもとに着実に道を開いて行く必要性を痛感した。

いよいよ、創立60年の大きな節目を迎えJMSCAはIFとの関係強化及び各都道府県(体育)スポーツ協会等加盟48正会員で組織されているという組織の根幹と目的を確認する大切な時期に来ている。東京五輪後のスポーツライミング普及のためにも国体の振興、ジム連、パラスポとの連携、指導者養成、施設整備等と夢多き目標も多い。



平成29年7月1日 鈴木長官とスタッフ

## 第33回リードジャパンカップ(LJC)

### 観戦チケット販売のお知らせ

3月7日(土)～8日(日)に開催される第33回LJCの観戦チケットを発売中です。各プレイガイドでお買い求めください。

前売券 3/8(日) 大人2,000円、高校生以下1,000円  
※3/7(土)は無料です。

## 第6回海外登山懇談会・報告

### 「大学山岳部の海外——自分たちの海外登山——」

11月14日(木)19時から国立オリンピック記念青少年総合センターで、第6回海外登山懇談会を開催。大学山岳部の衰退が謂われて久しいが、「いやいやがんばっている大学山岳部もある!」ということで、ネットやSNSで話題になっている大学山岳部のメンバーに来てもらい、海外登山の報告と現状や将来について語ってもらった。

国際委員会の落合常任委員の司会進行により、まずは八木原会長の挨拶。恒例の海外登山懇談会だが参加者が少ないのは残念。国際委員も組織の名前を国際アルパインクライミング委員会に変えたり、いろんな人に興味を持っていただき集まって貰えるように考えているので、是非若い人からいろいろな意見をいただき、組織を変え、人も変わって、元気に山登りを続けて欲しい。仲間を増やしながら、皆さんが楽しめる登山を続けて欲しいと、檄を飛ばされました。

最初の講演は、信州大学学士山岳会の「パキスタンチャラクサ氷河でのクライミングと信大山岳会のいま」と題して、大学研究室で働く江川信氏と高校教師の中嶋渉氏からの報告。OBの「70周年は盛大に」という遺産と遺言を受けチャラクサ氷河で2つのクライミングをした報告。



左 中嶋渉講師、右 江川信講師

もともと信州大学では現役もOBも含めて10年毎に海外登山を繰り返し、今回の遠征も前回の60周年記念事業で遠征に行ったのが切っ掛け。今でこそ信大山岳部は現役が20名程で結構盛んに活動しているが、江川氏が入部した年は、新入部員1名に4年1名のみ。たまたま翌年が60周年という前年に現役が入ったことで、現役とOBと一緒に海外遠征に行くことになり、現役が参加する事でOBの考えも変わり、現役の復活も成し遂げようと若手OBが中心になって現役を支援。この事業をターニングポイントに学士山岳会は「金は出す、なるべく口は出さないで支援する」という組織になる。そして先輩から技術を受け継ぐことができ、卒業後も登っていける仲間に出会うことができた。今回は、お互い忙しく休みは最長1ヶ月。ジャンボさんに相談したら、「パ

キスタンは最高だぞ！」とアドバイスされ、資料や映像を見て「こんな凄いところ行かないわけにはいかない」と動き始めた。ただ自分達もガンバッテ登っているが、ジャンボさんのように登れない。しかし登りたいので、目標を「岩壁を登りピークに立つ、ラインを引く」とした。

イスラマ到着から1週間でK7BC入り。周りは2～3000mの壁で、ヒマラヤ登山が初めての中島は「スケールが大きすぎて遠近感が狂った!ちょっとやられた」という。

最初、高所順応を兼ねてイクバル・ウォール(源次郎尾根に、ハッ峰を2つ繋げた感じ)を7ピッチまで登ったが、既登ルートだった。標高0mなら鼻歌交じりのルートだが大変苦しいクライミングとなり、このようなところで5.12のルートを初登することはなんとも凄いことと実感し、本命の岩壁には手がでなかった。そしてチャラクサ氷河で一番目立つナイサ・ブラックのブリティッシュ・ウォールを登った。約5000mの科尔までは水が流れるルンゼを登るが、日本の沢登り、夏合宿のようだったという。上部は堅い花崗岩。摂理やフレークが有る5.8～5.9位。しかしルートファインディングが難しくプロテクションも取れず、簡単でも落ちられない。自分達にとってはクライミングの引き出しを出し切った登攀。頂稜のリッジは60m×3ピッチだが非常に薄く、厚いところでコッペパン、薄いところはどら焼き。最後は馬乗りになって山頂に到着。16時前だったが天気は下り坂、トラバースのきついクライムダウンの後、6Pの懸垂下降で科尔着。薄暗い雨の中反対側のガレ場を下って21時半BC到着。雨は止み月明かりとなり、長い1日が終わった。

中島の目標「より遠くより高くより困難を追求するアルピニズム」ができたのかと問われれば「より困難」というところで、疑問符が付くが、価値がなかったか?と問われるとそうでもないと思う。登っていくと素晴らしいと思える壁がだんだん低くなっていく。この低くなっていった部分が、自分の身の丈と感じた。それを感じられた事が自分の中で一番の収穫だった。そして先輩達が「まずは行くことが大事だよ」と言っていた意味を理解。行く前に描いたイメージが今は経験になり、空想していたものが記憶の中にあり、立てていた計画は記録となった。今まで報告書や雑誌、映像で一枚隔てて観ていたものが、今自分の中にある。新しい壁にラインを引くことは大きなキャンバスに絵を画く過程だと思うが、実際に行ってみたキャンバスは非常に大きく手に余るものだった。今は、ようやくそこに下書きを始められる準備が整った、と結んだ。

続いて早稲田大学稲門山岳会の「ネパール ラジョダダ峰初登頂」の報告。就職3年目にして大手商社を退職して参加した萩原鼓十郎氏が動画や報告書を駆使して報告してくれた。

報告書▼

[www.waseda.jp/9a-wac1920/expedition/rajodada.pdf](http://www.waseda.jp/9a-wac1920/expedition/rajodada.pdf)

早稲田大学山岳部は、昔はかなり強かったが、萩原が入学した当時は各年次2人位で計8～9人の部員。1年生の時、会長が海外遠征をやろうとアコンカグアに行ったが登れなかった。コーチは年1～2回合宿に来てくれる程度で、あとは自分達で学んでいくしかない。登山研修では、ジャンボさんや花谷さんに一週間ぐらい来てもらい登攀技術等を教えて貰う。なので同年代の首都圏の大学山岳部の仲間とチームを組んで毎週末登りに行った。また有志で夏のアルプス、マッターホルンにも行き、同世代の中では登り込んでいたと思うと話す。



萩原鼓十郎講師

2020年が早稲田大学創部100周年。その前段階として、若い人で海外遠征をやったらどうか?という気配があったというが、今遠征隊の発起人鈴木と福田が、2015年にアイランドピークに行った後、ヒマラヤは楽しかったがフィックスのロープが有って良いのか?と思い、未踏峰に行こうという気持ちになる。そしてネパールの解禁峰104座の中から目標の山を選ぶ。衛星峰やショルダーピークではなく独立峰のラジョダダ峰となる。監督や幹事長等に話しを持っていくと学生2人だけではダメ、偵察ならOKとの回答。萩原氏は2人から「OBが来るのなら、登攀のチャンスがある!!」との相談を受け、自分も未踏峰をやりたかったので参加を決める。年長だったのでリーダー(隊長)として隊を結成する。登攀の様子を「First Ascent of LajoDada, 6426m 世界初登頂、ラジョダダ G O P R Oで撮影」を視聴。

▼ <https://www.youtube.com/watch?v=NuCdVrRoXR0o>

遠征は6日間のキャラバンで4650mのBC到着。高度順化で下の村に下ったりしてBCに5日間停滞。C1(5200m)は氷河の途中にある平らな場所。その先クレバス帯に切り立った氷壁があり、核心となる。4時間掛けて鈴木が突破。クレバスが終わるとなだらかな氷河歩き。AC(5730m)を建設して一旦BCに降りて休養。ヤ



マテン情報で3日間天気が良いとのことで10月15日BC出発。16日C1からAC。17日サミットデイ。6250mのリッジに出てやっと山頂が見える。雪は凍って堅いだろうと思ったが腐っていて腿まで潜る。タイムリミットの14時にリッジに取り付き登り始める。残り2ピッチはとりあえず行こう！と空身で出発したが、深いラッセルが50～60mも続く。そのまま登り続け太陽が沈む頃17時30分登頂。直ぐに下降を開始。6200mまで懸垂で降りたが暗くて何も見えず。経験したことの無い高度でのジバークは危険なので、戻れるところまで戻る。クライムダウン、トラバース、懸垂となり、途中ロープが絡んでロープ1本を切る。翌朝5時20分AC帰幕。26時間行動の大変なアタックとなった。

ヒマラヤの初登頂は大変なことと思っていたが、一つ一つを切りとると基本的には日本の山登りと同じ。日本の方が難しいことも多い。だから心理的なハードルを落として海外登山に臨むと良いのでは？と思ったが、OBには天気が良かっただけ！と言われたと報告。



第2部は、講師3名と国際副委員長鈴木女史の司会で「自分たちの海外登山」のテーマで座談会。

世代や感性の近い人間が集まる大学山岳部は、現役、先輩、OBと地層のように重なり上下に繋がっている。横の繋がりで世代毎にやっていきたいことや価値観が共有されやすく「自分達の山を追求」でき、縦の繋がりは金銭、技術、精神的な支えとなる。登りやすく良いチームになりやすい環境があると大学山岳部こそその海外遠征の良さを見いだした。

また、今後の活動や展望として、「登ったら楽しく、新しいものが見えワクワクする登山を続けたい。登りたいけど登れない！と言う人達と一緒に登りたい。」(江川)  
「若い世代に自分の経験したことを元にしてこんな生き方、楽しみ方があるよと伝えたい。それを伝えるには、自分が追求したい面白く楽しいことを追いつけることが大事と考える。」(中島)

「後輩にはヒマラヤに行きたいと思ったら会社を止めて行って来い。帰ったら俺の会社に来い！と言える会社にしたい。」(萩原)

最後「先輩の登った山とか少し上の先輩に対し、競争心やライバル心があるか？」との会場からの質問には、

「ジャンボさん達の登山は一寸遠すぎてイメージが湧かないレベル。自分達の山をやろうという空気感がある。」(萩原)

「張り合いたい、勝ちたいという感覚はないが、肩を並べたい、同じステージに立ちたいとは憧れる。張り合いではなく『同じフィールドで、自分のやりたい最大限のことを実現させたい』という気持ち。競争と言うよりは、憧れの自己実現。」(中島)

「すでにただピークに立つだけでは価値が無いものになってきていて、誰かと競うというのではなく、どれだけ価値を見いだせるかと言うところに登山の流れが変わってきているのではないかと思う。」(江川)と、各講師の持論を述べて会は閉会した。

(国際委員会委員 加藤富之)

## UIAA総会 Cyprus (キプロス) 報告

今年のUIAA総会は地中海の島、キプロス島、キプロス共和国で開催された。イギリス連邦、EUの加盟国であり、海を隔ててトルコ、シリアに近い。凡そ100Km×300Kmの島国であり、山と言えるものはない。主管はMOUNTAINEERING AND CLIMBING FEDERATION OF CYPRUS (KOMOAAP) キプロス山岳・クライミング連盟であり、2007年にUIAAに加盟している。

参加者：丸誠一郎副会長、小野寺斉

11月1日(金) 理事会

11月2日(土) 総会

10月31日(木)

ドバイ経由でLarnaka着。事前に迎えを頼んでおいた。どの国でも通常は「UIAA」と書いたカードを掲げて迎えに来てくれる。そのつもりでゲートを出たら「ヒトシ、ヒトシ」と叫ぶ声が聞こえる。エッ！まさかと思ったがやはりカードを掲げて私に近づいてきた。やはり私を呼んでいたようだ。今まで何回となく迎えに来てもらったがこんなことは初めてだ。ホテルにチェックインした後にU



総会

I A A受付に行き、資料を受け取る。

## ■11月1日(金)

本日は理事会である。今回は理事である八木原会長が来ていないので、理事会には出席できないと思っていた。数年前、神崎前会長が都合で出席できない時、代理出席していかと理事会に聞いたらNoの返事だった。今回もそうだと思っていたら韓国のChristine Pae(CP)がどうして出てこないのかと聞いてきた。さらにエレベーターでPF(Peter Farcus)に会ったら、やや強い口調でどうして出てこない、と言って来た。今までは八木原会長と一緒に出ているので理事会メンバーと思っていたらしい。お前は出ていいのだよ、という事らしい。それでも疑心暗鬼でUIAA事務局のDirectorであるNilsに確認してみた。そしたら委員会委員長も出席していることだし、ゲストとして出席しても構わない、という事になり、そのまま出席した。本協会もそうであるが、理事の代理は効かないものであるが、ずいぶんと緩くなったものだった次第である。という訳で、途中からであるが、理事会にも出席した。以後は総会の議題と被るところは合わせて記載する。

### (1)定款の文言の一部変更

UIAAの英語名は「The International Climbing and Mountaineering Federation.」である。つまり、IOCの中の一つのIFである。これは変更ないが、その後の文においてどのような団体であるかについて改正を長々と議論した。内容は割愛する

### (2)21世紀のストラテジー

これは既に2, 3年前から議論している。基本的にはMountaineering委員会(含UIAA標準パネル、アクセス委員会)、Safety委員会(Safety Label含医事)そしてMountain Protection委員会(気候変動にも国連と協力しながら対処する)の3本柱を中心に活動する考え方である。Rock ClimbingなどはAwardを出して積極的に推進しようとしているが、なかなか中心にはなり得ない。カザフスタンのカズベクからは自然保護などは政府がおこなえばいい(government duty)、クライミングはどうした、等の意見が出るのも道理である。確かに数年前と比べて遠征委員会が消え、クライミングの灯が乏しく(表に

出ない)なっている。

### (3)最近の高所登山における事故について

EBの要請を受け高山に関するWorking Group(WG)が発足した。UIAAの加盟団体や世界の登山に関する団体と共同してこのプロジェクトに取り組みたいとしている。南アフリカからの提案であった。

### (4)フルメンバー(第一加盟連盟)とアソシエイトメンバー(同じ国で第二加盟の連盟)の会費について

ノルウェーから、フルメンバーは投票権があり、そうでないメンバーは投票権がない。しかし、払っている会費は同じなので後者の会費は半額にすべきとの提案があったが、投票の結果否決された。

### (5)選挙

EBの定員は定款によると6~7名となっている。今回は3名の空きシートに7人が立候補し、3名が当選した。新EBメンバーは以下のとおり。

会長・Frits Vrijlandt(オランダ)、副会長・Zoljargal Banzragch(モンゴル・女性・新任)、事務局長・Lode Beckers,(ベルギー・新任)、経理・Peter Muir(カナダ)、理事・Helène Denis(フランス・女性)、理事・Mahmood Hashemi(イラン・新任)、理事・Yongfeng Wang(王勇峰・中国)

アジアの割合が増え、ヨーロッパが減った。これは稀有なことである。このうち、会長のFrits氏は来年が任期満了であり、次回は立候補しないと公言している。王勇峰もHelèneも来期は任期満了、理事の定員は5大団体から3名、各大陸から1名、その他世界から5名となっている。アジアは既に韓国がなっている。日本は今までは最後の5名のうちの1つをとっており、今回は八木原会長の任期満了、ネパールのZimbaの途中辞任で2名の席が空いた。日本は丸副会長が、ネパールはGurungが立候補したが、インドとマルタに代わられた。どちらにしてもインドは今回IMF副会長のAmitであるが、4年前は会長のChauhanが立候補、しかしUAAA(アジア山岳連盟)の会員でありながらUAAA会費が未納だったので日本が意見して途中から断念させた経緯がある。今年の6月のUAAA理事会でインドは十数年分の会費\$4000~\$5000支払っており、その布石だったのかも知れない。



全員の集合写真

何れにしても今回はキプロスの会長が立候補したり(落選)、マルタの会長が当選したり、新しく加盟した国が選挙に登場するのは珍しい。

#### (6)IOC講演

IOC冬季オリンピック責任者のIrina Gladkikh氏の特別講演があった。演題は「Association Director Winter and Recognised Sport & IF Relations IOC Sports Department」であった。総合的な展望であり、アイスクライミングなど個々に関するものでは無かった。概略内容は以下の通りである。

- A. Olympic Winter Program (冬季種目)
- B. The New Norm-Time for Changes (変化における長さ/時間)
- C. Gender Equality (男女共同参画)

上記は別々のものではなく、一体となって進んでいくものようであるが、理解しやすくするために一応分けて記述する。

A. 基礎的な事柄であり、2022北京では7スポーツ/109の競技種目、を考えている。「オリンピックアジェンダ2020」において冬季はおおよそ100種目2900アスリート、その次にスポーツ(競技)ベースから種目ベースに移行しつつ新しいスポーツを提案する。やがて女子の参加が50%になり、混合チームの種目の参加を促す。それらは持続性、信頼性、若者の取り込みを基本としている。冬季のみでなく夏季も含めて進めており、OCOG(\*)提案の考え方を進めていく。

B.OCOG提案は決定プロセスとして各IFも絡んでおり、そのタイムラインが示された。資金計画も考えられており、各IFや各NOCの積極性も求められている。

\*OCOG(Organizing Committee for the Olympic Games):オリンピックに新しい種目を提案する組織。

C. 男女共同参画についてもIOCの各委員会でレビューされている。

総会に参加している国は山関係が殆どであり、オリンピックにどれだけ関心があるか不明であるが、少なくとも

「オリンピックアジェンダ2020」のフレームを何回も示してくれたので凡そは理解できた。個人的には彼女が何回も口にした「Gender Equality」の言葉が脳裏に焼き付いている。

#### (7)名誉会員について

UAAA会長のLee Ing Johnが名誉会員に選ばれた。氏は韓国から孫も含めて家族でこの地に来ており、総会参加者から祝福を受けた。因みに日本人の名誉会員は2名である。

#### (8)UIAA事務局

今までは、UIAA事務局の責任者・Nilsといろいろ動いてくれるStephanieとは連絡をとりあっていたが、新たに以下の人たちと話すことが出来た。

- ① Peter Borne
- ② Robert Adie

今回、HAT-Jから依頼を受けた「国際青少年キャンプ」計画をユース委員会委員長にUIAAのユース事業の一つにできないかと提案させていただいた。ユース委員長ではなく最初にNilsに確認、その後このRobertとユース委員長に回してくれた。提案に賛成してくれて、今後はNilsとのやりとりになるが、Robertは事務局の担当者となる。

#### (9)分団討議

私は、①UIAA safety Labelを如何にもっと知らしめるか②ガバナンスに関して、の2つに参加した。紙面の都合で詳細は省く。 (記 小野寺齊)

### 創立70周年記念講演会・祝賀会・山岳資料展

山口県山岳・スポーツクライミング連盟(会長・小林弘之)の創立70周年記念講演会・祝賀会・山岳資料展が、1月17日(土)に宇部市文化会館文化ホールで開催された。トークセッションでは、『いま伝えたいこと』と題して花谷泰広(山岳)、平山ユージ(クライミング)、望月将悟(トレラン)氏らのトップアスリートが講演した。会場には一般137名、岳連会員233名が参加され、大盛況であった。



5月・6月のベスト・シーズンに行く、英国の登山&ウォーキングの旅の決定版

**英国3つの最高峰登頂と湖水地方  
エディンバラゆったり滞在 11日間**

発着地 東京・大阪 出発日 5/15(金)・6/12(金)

旅行代金 678,000円~688,000円

燃油サーチャージ(2020年1月20日現在:目安約24,000円~28,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ホコド保護会員

**ALPINE ツア サービス 株式会社**

山旅専用フリーコール ☎0120-938-290

e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

日時 令和2年1月9日(木)  
14:20～17:20

場所 Japan Sport Olympic Square  
3階10号会議室

出席者 八木原会長、亀山、平山、丸各副  
会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合  
田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、  
小日向、村上、水村、山口、前田、六角、  
唐木、安藤、古賀、山本、古林各理事、中  
嶋、古屋各監事

## 1. 開会

会長挨拶の後、会議成立状況が報告され、理事23名中23名出席、監事2名同席で回議成立。続いて議長を選出し、議事録署名人を指定して議事に入った。議事に入る前に丸副会長から財政再建諮問委員会活動について報告があった。

## 2. 議題

- (1)第8回理事会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (2)議案第2号 組織管理運営規程の一部改定について  
次回理事会への提案になった。
- (3)議案第3号 国民スポーツ登山振興基金の一部取り崩しについて  
「国民スポーツ登山振興基金」特別積立金設置規程第5条に則り、国民スポーツ登山振興基金の内、1千万円を取り崩して、同規程第4条第5号の事業に充当することが諮られた。全員一致で承認された。
- (4)議案第4号 理事会「議事録」の在り方について(継続審議事項)  
議事内容をどこまで記載し、公開するか、については、理事会メンバーに回覧する議事録は今まで通りとし、HPや正会員等への公開に関しては登山月報と同程度内容を理事会報告として公開することで、全員一致で承認された。
- (5)議案第5号 指導者員の承認について  
資料に基づいて提案があり、異議なく承認された。(詳細は、本稿末尾に記載。)
- (6)議案第6号 国際ロッククライミング研究学会大会の後援について  
後援名義申請の承認は、常務理事会マターの案件であったが、議事として理事会に諮り、全員一致で承認された。

## 3. 報告

- (1)報告第1号 世界選手権検証経過報告について  
財政再建諮問委員会マターとして取り扱うことになった。年度内には検証報告を提出したい。現在の状況については口頭で報告があった。
- (2)報告第2号 C A S 仲裁上訴の経緯・現状について  
合田常務理事と小日向理事から現状報告があった。
- (3)報告第3号 第15回日本スポーツグラ  
ンプリ候補者の推薦について

- 常務理事会では、該当者無し、との事。  
(4)報告第4号 令和3年度勲章、褒章受章者の推薦について  
常務理事会では、該当者無し、との事。  
(5)報告第5号 I F S C 総会参加者について  
3月13日～14日の総会と11日のA C C 総会に会長と水村理事を派遣。  
(6)報告第6号 第10回高校選抜クライミング選手権大会報告について  
資料に基づいて報告があった。  
(7)報告第7号 国内アイスクライミング  
チャンピオンシップ後援について  
常務理事会で名義後援を承認。

## 4. 専門委員会報告(抄録)

### 4-1. 広報委員会

- 12月10日(木) 出席者4名 JMSCA 事務局  
ア)登山月報編集について  
①「日山協と私」4月号から「日山協と私一  
夢と希望、未来に向けて」を連載  
②特集「現代アルピニズム考」を12ヶ月連載  
イ)創立60周年記念誌編纂について  
2021年1月16日(出)刊行、編纂内容案と  
スケジュール案を12月理事会に提案  
ウ)JMSCA magazine  
発行回数:2回/年(6月、12月)  
12月中に第2号発刊予定  
エ)その他  
①経費削減の為機関誌発送を第3種郵便か  
らメール便に変更する。  
②ネット広告から協会HPの動画へ(登山  
部関連)認知度向上を図る

### 4-2. 共済委員会

- 12月10日(木) 出席5名 JMSCA 事務局  
ア)令和元年度上期事業報告及び上期収支  
報告について  
・11月30日現在加入者:52,517名  
・前年度未加入者再送付は、4,827通発送  
して718名再加入(再加入率14.9%)  
イ)令和2年度「山岳保険のご案内」内容に  
ついて  
遭難捜索費用補償特約の新認可取得対応  
の経過報告  
・12/6に認可取得、12/20納品、1/10発  
送のスケジュール。  
ウ)山岳共済会新規事業について  
・減遭難啓発事業—音声入りアニメ動画制  
作の拡散について  
・Googleディスプレイ広告の予算について  
エ)令和2年度事業計画及び収支予算につ  
いて(次回委員会まで継続審議。)  
オ)その他  
・国内旅行傷害一般包括保険の契約につ  
いて

### 4-3. 登山普及委員会

- 12月11日(木) 出席5名 JMSCA 事務局  
ア)「登山普及情報交換会」について  
案内最終版確認。  
イ)令和2年度予算について  
事業を見直して予算の削減を図る。  
ウ)その他  
・高校山岳部顧問の育成について  
「夏山リーダー講習」制度の活用

### 4-4. SC 委員長副委員長会議

- 12月12日(木)17時～ 3F 会議室  
ア)A D・倫理研修について  
ジャッジ・セッター・指導者対象に倫理  
研修を実施→ブロック研修会内で実施  
の方向で検討、A 選手登録の義務研修の

- 有料化(1,000円)、・国体選手対象の義  
務研修(各都道府県協会で開催できないか  
検討)  
イ)第3回C J C 開催日程について  
盛岡市では、5/16～17は市長不在のため、  
5/23～24を希望。  
ウ)岩手県盛岡市の要望について  
BWC及びC J C のを隔年開催について。  
J T 及び代表合宿の継続開催について。  
第3回C J C をボルダリング施設のこけ  
ら落としとして実施  
エ)ジャパンカップの盛上げについて  
予選チケット売上げ増の秘策を要検討。  
オ)国体の現状報告について  
文言の改訂。リードのルート数について。  
隔年での開催の可能性。点数のアップ等  
カ)選手・スタッフ合同ミーティングにつ  
いて(12/15)  
2020年シーズンを迎えるJ M S C A の  
体制等。  
キ)C J C の出場選手について  
オリンピックを目指す選手だけでなく、  
その次点の選手にも出場してもらう方  
法を検討中。代表選考と兼ねる。5/23  
-24はWC ミュンヘンと重なるため、  
要検討。  
ク)新春懇談会のアスリート出席について  
最大の出席人数を決め、強化委員会とア  
スリート委員会で選手名をあげてもらう。  
新春懇談会の場で、スポンサーから選手  
へ報奨金を渡す場面や選手からの挨拶  
をできる場を設ける。  
ケ)アスリートパスウェイ(スピード)につ  
いて  
スカウティングは終了(対象は中学生1  
年～3年)各ブロックでのスピードコー  
チを配置、指導教本を作成予定  
**4-5. 強化委員会**  
12月9日(木) 出席5名  
ア)協議  
①今後のスケジュールについて  
ユース日本代表強化合宿(1/4-10、  
フランス)  
J M S C A オリンピック強化選手強化  
合宿(1/14-24、インスブルック)  
②日本代表及びユース日本代表選考につ  
いて  
③東京オリンピック使用ホールド発表  
イ)報告  
①オートビレー機のリコールについて  
公式オートビレー機のPerfect Decentが  
リコールとなった。各施設で対応中。  
②B M I について医科学担当より  
日本代表選手たちの現状について  
ウ)全国の施設整備の情報  
・新設クライミング施設:京都(室内、3  
種目)、広島県福山、葛飾区亀有  
・東京2020大会壁のイメージ図が公表。  
**4-6. 遭対委員会**  
12月22日(木) 出席14名  
長野県山岳総合センター  
ア)1月～3月行事日程  
①医科学委員会  
1/18(土)ファーストエイドに関して。  
②山岳レスキュー講習会(積雪期)  
1/24(金)～26(日) 医科学委員会より中  
島委員長、上小牧常任の2名参加予定。  
③AVSAR 上級講習会(2/14日(金)～16(日))  
④夏山リーダー講習会 3/14(土)～15(日)

- ⑤ 遭難対策委員会総会 3/21(土)~22(日) 2020年度行事計画について
- ① 全国遭難対策委員長会議 6/27(土)~28(日) 大阪府サニーストーンホテル
- ② 全国山岳遭難対策協議会 7月(日付未定) 場所: 文部科学省講堂
- ③ S A R 総会 8月(日付未定)
- ④ 遭難対策委員会研修会 8/22(土)~23(日)
- ⑤ 山岳レスキュー講習会(無雪期) 9/11(金)~13(日)
- ⑥ 山岳レスキュー講習会(積雪期) 1/29(金)~31(日)
- ウ) 減遭難活動について  
(案-1) 加入者の利便性と加入者数増を図る。  
(案-2) 各県で行っている減遭難活動のイベントについてJMSCA 遭対のバックアップを頂きたい。

#### 4-7. 登山部会

- 12月12日(木) 出席者14名 JMSCA 事務局
- ア) 報告事項
- ・自然保護委員会: 自然保護指導委員研修会・講習会(1/25, オリセン) 3月自然保護山岳7団体協議会
  - ・国際・A C 委員会: 英文HPを1月中旬に開設
  - ・山岳スキー委員会: ワールドカップ中国大会(2/19) 数名出場 日本選手権(4/4~5, 樽池高原)
  - ・登山医科学委託内容について 夏山リーダー講習会「セルフレスキュー」講師のためのマニュアル作成研修会を開催(1/18(土)) 夏山リーダー講習テキスト「セルフレスキュー」の内容の校正。
- イ) 減遭難啓発アニメ動画配信方法(継続) Google ディスプレイ広告による拡散 予算化 総額60万 2020. 1月~3月

#### 4-8. 指導委員会

- 1月6日(月) 12名出席 JMSCA 事務所
- ア) 報告
- ① 夏山リーダー講師養成講習会

- 3/14~15, 夏山リーダー講師養成講習会実施予定(参加費は無料)  
場所: 神奈川県立山岳スポーツセンター
- ② 夏山リーダー資格認定ピンバッジについて
- ③ 夏山リーダー資格認定ワッペンについて
- ④ 氷雪技術研修会について 2/15~16, 大山、講師: 野村・堤・本郷・切嶋
- ・富士山: 4/25~26

#### 5. 会務・役員派遣(12月14日~1月15日)

- (1) 安全登山サテライトセミナー(東京会場) 12月14日(土)~15日(日)  
於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 丸副会長、水島常務理事
- (2) 日本ヒマラヤ協会華甲望年会 12月14日(土) 於: 主婦会館プラザエフ 丸副会長
- (3) I F S C クライミングサミット 12月14日(土) 於: トリノ 八木原会長、水村理事
- (4) J S C 感謝の集い~国立競技場竣工記念祝賀会~ 12月15日(日) 於: 国立競技場 尾形専務理事
- (5) スポーツ団体ガバナンスコード説明会 12月16日(月) 於: J S O S 14階 尾形専務理事、小野寺常務理事
- (6) 毎日スポーツ人賞表彰式 12月18日(水) 於: 東京ドームホテル 八木原会長
- (7) 臨時常務理事会 12月18日(水) 於: J M S C A 事務局 八木原会長他
- (8) 第10回全国高校選抜スポーツクライミング選手権大会 12月21日(土)~22日(日) 於: 加須市民体育館 八木原会長、尾形専務理事、村岡・前田理事
- (9) 仕事納め 12月27日(金)
- (10) 仕事始め 1月6日(月)
- (11) ネパール大使館レセプション 1月7日(火) 於: ネパール大使公邸 神崎顧問、小野寺常務理事
- (12) テレビ朝日ビッグスポーツ表彰式 1月

- 10日(金) 於: ザ・プリンスタワー東京 八木原会長、尾形専務理事
- (13) 新春顧問・参与会 1月11日(土) 於: アルカディア市ヶ谷「鳳凰」 八木原会長他
- (14) 2019年シーズン表彰式・新春懇談会 1月11日(土) 於: アルカディア市ヶ谷「富士」 八木原会長他
- (15) 安全登山指導者研修会引き継ぎ会議 1月12日(日) 於: アルカディア市ヶ谷「雲取」 丸副会長、尾形専務理事、水島常務理事
- (16) アマチュアスポーツ新春懇談会 1月15日(水) 於: NHK 放送センター 22階 尾形専務理事
- <議案第5号 指導者認定承認者>
1. 指導者認定申請
- ア) スポーツクライミングコーチ1(千葉県山岳連盟) 12名  
竹下瑛美李、長畑慶春、高橋雅代、小菅雅之、君島裕希子、勅使河原暁、深見則義、深見沢子、安楽武志、荒井克仁、高橋一也、井上昇
- イ) 山岳コーチ1(山形県山岳連盟) 10名  
池田大輔、佐藤清志、佐藤友一、田巻和敏、金野伸、齋藤拓、堀啓三、佐藤和典、金田英俊、藤井伸晃
- ウ) スポーツクライミングコーチ2(東京都山岳連盟) 5名  
吉田貴子、大崎香、渋谷愛、田村豪尉、宮本容幸
- エ) スポーツクライミングコーチ1(神奈川県山岳連盟) 5名  
松井一夫、大谷拓海、柿崎健一、工藤江美、相馬明輝
- オ) スポーツクライミングコーチ1(北海道山岳連盟) 14名  
親川杏菜、齋藤司、吉田亜紀子、高野祐輔、加藤崇士、高野稜子、中村京介、中村卓詩、山根学、高見直広、萩原広次、國谷斗馬、若宮誠一、村上直美
- カ) スポーツクライミングコーチ1(鳥取県山岳・S C 協会) 16名  
奥畑勝康、堀有彦、植松敬太、畑下晴恒、浅井重徳、福田寛、宮崎邦哉、原文男、落合浩司、妹尾涼子、福山農、前田仁史、藤岡良仁、伊藤謙、安本海斗、高田知暁

## 寄贈図書

寄贈本	八木原明	「群馬の山歩きベストガイド」
	(株)山と溪谷社	「北岳 山小屋物語」樋口昭雄著
雑誌	Vertical-Life	「ROUTE SETTER」2019/20 # 2
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2019年3月 No.1007
会報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.872
	Club alpino italiano	「Montagne360」gennaio 2020
	日本万歩クラブ	「アルク」2・3月号
	(公社) 日本山岳会	「山」12月号 No.895 1月号 No.896
	中華民国山岳協會	中華山岳<雙月間> 274
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳連盟」創立70周年記念誌
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第631号
	NPO 法人富士山測候所を活用する会	「芙蓉の新風」会報 Vol.14
	大阪府立体育協会	「季刊 府立体育会館」No.131号
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol74
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.501
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.721
	(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.47
	(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.364
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.540
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第346号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.97 No.1079
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第436号
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」176号
	日本山岳写真協会	日本山岳写真協会ニュース 1月号 第469号
日本山岳文化学会	日本山岳文化学会論集 第17号	
おいらく山岳会	山行手帖 No.722	

想像をはるかに超える「保温力」

# 超肌着力

極寒のエベレストを制した究極の肌着!!

2. スポーツライミング主任検定員養成講習会

ア) 東京地区 5名

新規: 早石利枝(長野)、島田邦昭(神奈川)

更新: 林千里夫(北海道)、山納秀俊(北海道)、石井明彦(北海道)

表紙のこぼ

ランポ・ピーク(北峰6,954m。南峰6,852m)は、ジョンサン・ピークからカンチンジュンガに向かって南下する国境稜線上の山で、カンチンジュンガの北北東17kmに位置する。山名のランポは、東麓の谷の名前からきており、レブチャ語で「牝牛」を意味する。

ランポ・サウス・ピークは、1939年にピラミッド・ピークを目指したE・グローブ、L・シュマデラー、H・パイダールの3人がピラミッド・ピークを断念した後、8月19日に初登頂。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

大寒を過ぎてから寒い日が続いている今日この頃であるが、桜は例年よりかなり早いようだ。

来月に年度末を控え各岳連(協会)、本協会も予算・決算、事業計画を編成する時期である。

JMSCA創立60周年記念事業で記念誌の編纂があり、広報は事務局と協力して原稿や資料集めを担務する事になる。皆様に原稿依頼の案内が届きましたら協力をお願いします。

(広報担当 水島彰治)

**JMSCA 60周年募金協力者ご芳名**  
 (2020年1月31日現在、敬称略)  
 6口: 首藤宏史、2口: 小野倫夫  
 (総額: 368口 1,840,000円)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**  
 〒141-0031  
 品川区西五反田6-3-23-205  
 ☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

**NPO法人 北丹沢山岳センター**  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会  
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会  
 ・道志村トレイルレース実行委員会  
 ・八重山トレイルレース実行委員会  
 ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会  
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会  
 大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第611号**  
 定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 令和2年2月15日  
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
 Japan Sport Olympic Square 807  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツライミング協会  
 電話 03-5843-1631  
 F A X 03-5843-1635

山岳雑誌 **岳人** がくじん  
 山と人、時代をつなぐ「岳人」

**3月号 発売中**

**【特集】2泊3日の屋久島**  
 ★モンベルのウェブサイト  
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!  
 毎月15日発売 価格880円(+税)

**年間購読がおすすすめです。**

購読割引 送料無料 Tシャツセット  
 年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格 12冊 10,560円(税込)  
 年間購読 12冊+Tシャツ 9,680円(税込)  
 11,616円(税込) → 10,648円(税込)

2色から選べる!



**「岳人」年間購読+岳人Tシャツ** セット  
 期間限定 キャンペーン  
 岳人の年間購読を【新規お申し込み】または【ご継続】いただくと、「岳人Tシャツ」クーポンをセットでお届け。  
 キャンペーン期間(お申し込み日)  
 2019年10/15(水)~2020年10/14(水)  
 (2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります)

※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには発送も可能です。

あなたを守る。  
あしたを作る。  
三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ることを繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう  
三井住友海上  
時空保険  
探査部  
Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

時空を超える  
ゲート。

社員証を  
かざせば  
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.com>



WEBからもお申込みいただけます